



雪印の緑肥作物特性表 (2017)

緑肥作物は、堆肥等のかわりに肥料効果が期待される作物として古くから利用されてきました。弊社では肥料効果だけでなく、「緑肥ヘイオーツ」に代表される線虫抑制効果が期待される緑肥の開発も行ない、近年、各地で注目され利用場面が多くなっています。

道内用

品種名	作物名	センチュウ抑制		緑肥の効果										利用			播種量 (kg/10a)	播種期 (月・旬)	特 性		
		キタネグサレ	ダイズネコブ	有機物の補給	空中チソウの固定	菌根菌の増殖	透水性の改善	塩類除去	土壌保全	防風・隔離作物	景観美化	休閑	後作	短期休閑	間作	越冬				施設ハウス	
緑肥ヘイオーツ	エンバク野生種	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10~15	4下~6中 7下~8中 8下~9上	初期生育旺盛、細莖・多葉で極多収。キタネグサレセンチュウ対抗作物。センチュウ対策は15kg/10a、9月播きは20kg/10a。
キカラシ	シロガラシ			●		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	2~3	4下~6中 7下~8下	生育旺盛で多収。テンサイの前作に最適 (収量性を改善)。鮮やかな黄色い花をつける。
辛神 ※※※	チャガラシ			●		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	コート 1.0~1.5	露地：5月 ハウス：2~4月 8月 (ハウスも)	辛味の成分含量が高いアブラナ科緑肥。着蕾~開花始の茎葉部の多い時期にできるだけ細断して動き込む。ハウス等残肥が多い場合は無施肥でも可。景観緑肥にはキカラシのほうが良い。テンサイ根腐病、ホウレンソウ萎凋病、コムギ立枯病の発病軽減効果が期待できる。
まめ助	ヘアリーベッチ			●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	5	5上~6中 7下~8中	小麦や早出し作物後に播種できるマメ科緑肥。根粒菌も着生。
藤えもん	ヘアリーベッチ			●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	4~5	5上~6中 7下~8中	耐湿性に優れ、根粒菌も着生。
寒太郎	ヘアリーベッチ			●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	5	5上~6中 9中~下	越冬性と耐湿性に優れる。長期栽培で雑草抑制が期待できる。
まめゆたか	まめ助5kg とちゆたか3kg 混播セット			●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	8	5上~6中 7下~8下	直立性エンバク「とちゆたか」とベッチ類「まめ助」との混播。根粒菌の着生と8月下旬播種でも可能なセット。
ねまへらそう	スーダングラス	●	●	●		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	5	露地：6~7月 ハウス：5~8月	ヘイオーツに準じてネグサレセンチュウを減らす。秋播き小麦の休閑に最適。栽培期間が長く、極多収。ドリフト対策の障壁作物として利用。
つちたろう	ソルゴー	●	●	●		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	5	露地：6~7月 ハウス：5~8月	低温伸長性に優れ、初期生育が良好。種子が小粒でスタンク形成が良好。ドリフト対策の障壁作物として利用。 クリーニングクローブ利用は無施肥。サツマイモネコブセンチュウ対抗作物。
くれない	クリムソクローバ	●	●	●		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	2~3	4下~6中 7下~8上	ダイズシストセンチュウ対抗作物。根粒菌により空中チソウを固定し、地力を増強。深紅の花が景観美化に最適 (春播きのみ開花)。
アンジェリア	ハゼリソウ			●		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	2~3	5~6月	春播きで生育旺盛、被覆が早く雑草対策となる。綺麗な紫色の花が咲き、蜂花植物としても最適。花は8月まで楽しめる。前作で栽培するとネギの生育が良好 (府県で実証)。
とちゆたか	エンバク	●	●	●		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	後作・休閑：10~15 間作：5~8	4下~6中 7下~8中	耐病・耐倒伏性の直立性エンバク。園芸作物や早春の防風作物に最適。カボチャの間作やタネバレイシヨの隔離作物として好評。ドリフト対策の障壁作物として利用。
R-007	ライムギ	●	●	●		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	10~15	8下~9上(年内) 9中~下(越冬)	タマネギの後作緑肥に最適 (保水力の増加や土を軟らかくする)。越冬させて早春の土壌侵食防止に最適。ドリフト対策の障壁作物として利用。キタネグサレセンチュウを抑制。
アカクローバ緑肥用	アカクローバ	●	●	●		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	休閑：2~3 小麦間作：3~4	5~6月 4月 (出来るだけ早く)	根粒菌により空中チソウを固定し、地力を増強。ダイズシストセンチュウ対抗作物。小麦間作は適度に土壌水分があるうちに播種する。
緑肥用エンバク	エンバク	●	●	●		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	15~20	7下~8中	早生エンバク (春播きは不適)。
緑肥用トウモロコシ	トウモロコシ	●	●	●		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	7,000~10,000粒/10a	5~6月	遊休地の地力対策に最適。除草剤による簡単な管理で、粗大有機物を確保。

都府県用

品種名	作物名	センチュウ抑制		緑肥の効果										利用			播種量 (kg/10a)	播種期			特 性		
		※サツマイモ	ネコブ	ネグサレ	ナミシシユク	菌根菌の増殖	透水性の改善	塩類除去	土壌保全	防風・隔離作物	景観美化	休閑	後作	果樹草生	間作	越冬		施設ハウス	東北・高冷地	一般地		西南暖地	
辛神 ※※※	チャガラシ	●	●	●		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	生1.0 コート1.5	5月~6月 8下~9上 (年内利用)	3月~4月 10中~11上	2月~3月 10下~11中	土壌病害、サツマイモネコブセンチュウ対策に。
緑肥ヘイオーツ	エンバク野生種		●	●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	10~15	4上~6上 8中~9上	3上~5下 8下~9中 10中~11上	2下~5上 8下~9下 10下~11下	ダイコン、ニンジン、ナガイモの線虫対策。キャベツ、ハクサイなどの根こぶ病対策に。
スナイパー	エンバク	●	●	●		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	8~10	—	8下~9中	9上~9下 9下~10上 離島(種子島等)	サツマイモネコブセンチュウ対策に、晩夏~冬の空畑を有効利用。 南九州など秋季温暖な地域では9月中旬~9月末の播種が望ましい。
とちゆたか	エンバク		●	●		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	間作5~8 すき込み 8~10	4上~6上 8中~9上	3上~5下 8下~9中 10中~11上	2下~5上 8下~9下 10下~11下	コンニャク、高原野菜の防風・敷ワラに。
たちいぶき	エンバク	●	●	●		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	8~10	—	8下~9上	8下~9中	サツマイモの線虫対策。

●：最適 ○：適する ※サツマイモネコブセンチュウの系統によっては抵抗性を示さないものがあります。
 ※※秋播き越冬栽培で莖葉4t以上すき込んだ場合に効果あり。
 ※※アブラナ科野菜の根こぶ病発生圃場での使用はお避け下さい。